



さいたま市障害者協議会 第18回総会 開催



令和3年5月25日(火) 14時～
大宮ふれあい福祉センターにて



社会福祉協議会事務局長 吉野氏より
挨拶をいただきました

昨年度は書面開催となりましたが、厳重なコロナ対策の中で、18団体、各団体2名、約40名の参加で総会を開催いたしました。来賓のあいさつ、活動報告、予算、事業計画など、順調に進み、1時間程度で閉会しました。会員の皆さまと、この困難な一年を乗り越えていきたいと思っております。

さいたま市障害者協議会 令和3年度役員 挨拶

会長 中野 勇

私は、障害者協議会会長の中野勇です。会長就任4年目を迎えました。昨年令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大により、協議会の事業・活動が計画通りできませんでした。

本年は、新型コロナウイルスワクチン接種開始により減少傾向にあります。

さいたま市社会福祉協議会事務局長吉野氏、さいたま市社会福祉事業団事務局長 坂田氏、さいたま市障害政策課 竹内課長を来賓に迎え、議長にさいたま市手をつなぐ育成会代表理事加藤シゲヨ氏を選出し、総会が理事・役員38名で開催されました。

障害者協議会三役・事務局ともども、感染症予防対策をしながら理事会・事業活動を行いたいと思っておりますので、皆さまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

副会長 渡辺 浩二

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡

大により、私たちさいたま市障害者協議会においても大きな影響を受けた一年でした。

令和3年度に入り、日本国内では新型コロナウイルス感染症拡大の第4波が進み、緊急事態宣言が発令されました。世界でも変異株による感染が拡大しています。

令和3年度も引き続き副会長という大役を頂戴しまして、身を引き締めて貢献したいと思えます。

まだまだ収束の見えない新型コロナウイルス感染は、新たに感染症デルタ株ウイルスがまん延しています。東京では4度目の緊急事態宣言が発令し、埼玉県もまん延防止対策が引き続き実施されています。

この先もまだまだコロナ禍が続きますが、私たちは、これまで通りコロナに感染しないように注意して今後、活動していかねばなりません。また、希望する人が一日も早くワクチン接種を終えるよう願うばかりです。

最後に加盟団体の皆さま方におかれましては、日頃より、さいたま市障害者協議会の運営にご理解とご協力を賜りまことにありがとうございます。

新型コロナウイルス感染の終わりが見えますが、これからも皆さま方のご期待に沿えるよう努めてまいります

ので、今年一年よろしくお願いいたします。

副会長 米山 恵美子

令和3年度も引き続き副会長という大役を頂戴しまして、身を引き締めて貢献したいと思えます。

まだまだ収束の見えない新型コロナウイルス感染は、新たに感染症デルタ株ウイルスがまん延しています。東京では4度目の緊急事態宣言が発令し、埼玉県もまん延防止対策が引き続き実施されています。

そんな中、東京オリンピック・パラリンピック2020も開催されました。

副会長 竹内 政治

コロナウイルスで明け暮れ、新しい年度を迎えましたが、状況は悪くなるばかりです。その中で少し希望が見えるものは第18回総会が無事に終わり、淡々とではありますが、さいたま市障害者協議会の日常が続いていけそうな

ことです。私も毎週水曜日にウィーズの電話相談で事務局にいきます。事務所は平和で、外ではコロナがまん延していることが嘘のようです。私はワクチンの副反応が怖いですが、3週間後に予約は取れています。2回目はまだ取れていません。ワクチンに対しては不安だらけです。オリンピックが開催されて、途端に感染者数が激増しました。アスリートたちには申し訳ありませんが、私はオリンピック開催に反対でした。こうなることは予測できたはず。遂に感染者が一日1万人を超える事態となってきました。「誰が責任を取るのでしょうか？」たぶん、責任を取らされるのは国民でしょう。テレビでオリンピックを見ながら苦々しく、そんなことを考えています。



さいたま市保健福祉局福祉部 着任のご挨拶

ノーマライゼーションの推進について

さいたま市障害政策課 課長

竹内 成仁氏

本年度、さいたま市障害政策課長に
着任しました竹内成仁と申します。

皆さま方には、日頃から本市の障害
福祉行政の推進につきまして、格別の
御支援、御協力を賜り、この場をお借
りいたしました厚く御礼申し上げます。

また、中野会長をはじめ会員の皆さ
ま方には、「『障害者週間』市民のつど
い」をはじめとして、「ノーマライゼー
ションの推進に御尽力いただき深く感
謝申し上げます。

全国の政令指定都市に先駆けて、平
成23年4月に制定された「さいたま市
誰もが共に暮らすための障害者の権利
の擁護等に関する条例」、いわゆる「ノ
ーマライゼーション条例」は、今年で
10年を迎えました。この間、貴協議会
の皆様方から、実際の生活に基づいた
生の声をいただきながら、さいたま市
の障害者施策を推進することができま
した。これもひとえに皆さまのおかげ
でございます。

着任のご挨拶

さて、本市では、誰もが共に暮らす
ための市民会議などで意見を収集し、
コロナ禍における障害のある人の困り
ごとの実例や配慮の在り方を市ホーム
ページやツイッターなどの活用により
周知・啓発を行っております。コロナ
禍における影響が長引き、日常生活に
も大きな負担が及ぶ中で、ほんの少し
の気づきや気配りが広がり、障害のあ
る方やそのご家族にとって、さいたま
市が住みやすい地域となるよう努めて
まいります。

今後、障害のある人が住み慣れた
地域で安心して暮らせるよう障害者施
策の推進に取り組んでまいりますので、
引き続き皆さま方の御支援と御協力を
お願い申し上げます。

今年度から、さいたま市保健福祉局
福祉部障害支援課の地域生活支援係長
に着任しました金澤大輔と申します。

障害者社会参加推進 センター運営事業に ついて

さいたま市障害支援課 係長

金澤 大輔氏

本年度から、さいたま市保健福祉局
福祉部障害支援課の地域生活支援係長
に着任しました金澤大輔と申します。

皆さま方には、日頃から本市の障害
福祉行政に多大な御理解と御協力を賜
り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、障害をお持ちの方
の自立や社会参加などの促進を図るこ
とを目的とした「障害者社会参加推進
センター運営事業」を業務委託にて実
施しており、受託者である「さいたま
市障害者協議会」様の元、御登録いた
だいている各団体の皆さまに御尽力い
ただきながら、障害をお持ちの方やそ
の御家族が日常生活に必要な「生活訓
練」や「家族教室」といった講座を開
催しているところです。

昨年度は、新型コロナウイルス感染
症の拡大防止に係る活動制限を受け、
各講座はやむなく中止、もしくは規模
を縮小して開催などとした残念な結果
となりました。

となりました。

今年度も、コロナ禍の難しい状況が
続く中ではありますが、皆さま方の努
力と工夫により、ZOOMなどを活用
したりリモート開催といった感染防止対
策を講じた新しい形での講座を予定し
ております。

各講座が、御参加いただく方々にと
ってより良いものとなるよう、団体の
皆さまと連携を図りながら事業に取り
組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症に関する
取り組みは依然として続き、障害者支
援の有り方も官民共に多くの変化が求
められ手探りの困難な状況ではありま
すが、今後も障害支援施策の推進に努
めてまいりますので、皆さま方の御支
援と御協力を賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。



大切にしたいノーマライゼーション条例

講師 齋藤 なを子氏

令和3年度のさいたま市障害者協議会相談事業の一環として、「大切にしたいノーマライゼーション」をテーマとした講演会が7月13日、大宮ふれあい福祉センターで開催されました。

鴻沼福祉会常務理事の齋藤なを子氏を講師に招き、条例づくりの当時の状況・経過・条例をどう奏でるかなどを話していただきました。

齋藤氏はノーマライゼーションの設立当初から関わった人であり、▽政令市で一番良い内容の条例をつくる▽理念（根本的な考え方）を宣言するのはなく、障害者の権利の内実（中身のある内容）をつくる▽障害当事者、市民が関わり、プロセスも大事にーを基本方針としました。

● 条例づくりの経過

平成21年11月、さいたま市長から政策委員会に諮問があり、「条例検討専門委員会」の設置（学識経験者、福祉関係者、教育関係者、弁護士など12人

構成）。「条例について話し合う1000人委員会」の設置（障害当事者、家族、市民など1000人規模）で構成され、

JR、タクシー、バス会社など意見交換。ヒアリングの実施（交通、雇用、生活、福祉、教育関係者との懇談）、シンポジウム（400人ほど参加）、学習会、イベントでの啓発（駅に横断幕を掲げる）や、タウンミーティングを開催し、活発な議論がなされました。

一方、政府は障害者に権利を持たせる法律を作る「障害者制度改革推進会議」（平成22年）の検討が開始されました。

● 議論やれなかったこと

▽地域での悲しい思いや困ったことなどの現実を出発点とする▽障害をできるだけ包括的に捉える▽障害の有無に関わらず、皆が平等に暮らせる市にしよう▽市民に分かり易く伝えていく▽市職員の条例の理解と率先した意識改革を▽施策を実行するための財政措

置を行うーなどを盛り込んだ「条例要綱案」最終報告を、平成22年12月、市長に答申しました。

市議会の審議では、一部内容のトーンダウンが危惧されました。大変なエネルギーを必要とし、廃案の可能性もありましたが、翌年3月、原案通り可決しました。

● 合理的な配慮の義務化とは

今年、「障害者差別解消法改正」が成立しました。主な改正点として、「事業者による社会的障害の除去の実施に係る必要かつ合理的な配慮の提供の義務化」となっています。今まで努力義務とっていたことが、義務化になるということなんです。ここで、合理的な配慮を提供するために必要なことは、建設的な対話が必要になります。事例としては、筆談でのコミュニケーション、代筆、代読、スロープの設置ーなどで事態の解決を図ります。

齋藤氏は質疑応答の中で、条例制定

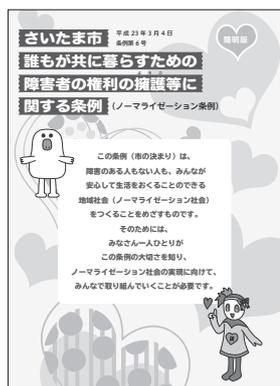
後も、市民からの意見を活かしていきたい。市民に浸透させるには、障害当事者や家族が権利を知らない場合もあり、自分達の権利と自覚して強くなつていく取り組みをしたい。自分に係ることは分かるが、他の障害を理解することも大切です。また、グループホームの建設では、地域住民の方に建設趣旨などの説明はしているが、理解が得られない場合もある。市職員は住民に根気良く働きかけることが大切であり、住民に対し周知する取り組みをしていきたい。条例の質の低下は怖い。形骸化させないためにも一緒に頑張りましょうと話しました。

『私たちぬきに 私たちのことを決めないで』のスローガンの通り、物事の本質を見極めることが大切です。齋藤氏の講演会は大変参考になりました。

さいたま市

精神障害者家族会連絡会

鈴木 義男



ノーマライゼーション条例とは さいたま市障害政策課から

「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」(ノーマライゼーション条例)は、平成23年4月に施行され、今年で10年となります。

当時、「条例について話し合う100人委員会」が設置され、障害のある方やそのご家族、支援者の方々からたくさん生の声をいただきながら、国の障害者差別解消法に先立ち、この条例は生まれました。

このノーマライゼーション条例は、障害の有無に関わりなく、全ての市民がかげがえのない人として認め合い、権利を守り合うことよって、安心して生活することができると地域社会を目指すことを理念としています。

そのポイントは、①障害のある人も共に暮らす市民のひとりであること②障害のある人が権利の主体として守られること③障害のある人が地域で暮らすために必要な支援をすることです。

さいたま市では、市民一人ひとりがこの条例の大切さを知り、障害のある人となない人の垣根がないノーマライゼーション

社会の実現に向けて、イベント等を通じて啓発活動を行ってきました。

今年、障害者差別解消法が改正され、今後、会社やお店などの事業者にも合理的配慮の提供が義務化されます。このことにより、社会における「バリア」が取り除かれることで、障害のある人がより一層地域の中で暮らしやすくなることが期待されています。

さいたま市でも、このノーマライゼーション条例を大切に、引き続き啓発を行い、障害のある人もない人も安心して生活を送ることができると地域社会づくりに取り組めます。

さいたま市障害政策課

ノーマライゼーション推進係

当事者も知ろう

ノーマライゼーション条例

斎藤さんの講演は何回か聴いたことがありましたが、その中で本日のお話はもっともよかったです。ノーマライゼーション条例ができたときの熱量と喜びが手に取るように感じられました。「私たちがぬきに 私たちのことを決めないで」というフレーズは、今では当

たり前のようになっていますが、当時では画期的なものでした。この条例ができて10年。残念ながら市民の認知度は低いのが現状のようです。「どうしたら、もっと幅広く知られるようになるでしょうか?」と斎藤さんに質問すると、まず、障害当事者が深く理解する必要があるとの答えでした。私をはじめ、ノーマライゼーション条例をよく知らない当事者や家族も多いのでしよう。その意味でも本日の講演は大変意義深いものでした。

さいたま市

精神障害当事者会ウィーズ

竹内 政治

心のバリアフリーを目指して

斎藤さんの講演からは10年前にいかにもノーマライゼーション条例が熱い思いと努力で制定されたのが、ひしひしと伝わってきました。また、それと同時に未来に向かって条例をどう生かしていくのか、課題の難しさを提起されたように感じました。

特に、社会に根深く浸透している優生思想を克服していくことが最大の課題であるというお話しからは、5年前

の津久井やまゆり園事件が思い起こされ、胸が締め付けられる思いでした。

優生思想に対峙できるのは障害者権利条約であり、第17条「全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態尊重される権利を有する」は、重症心身障害者の娘を持つ私にとって、心が休まり、背中を押してもらえる条項です。

斎藤さんが冒頭に掲げられた「私たちぬきに私たちのことを決めないで」のメッセージを大切に心のバリアフリーを目指して積極的に社会参加し、障害当事者や家族ができることを実践していくことが重要なのだと学びました。

さいたま市

肢体不自由児・者父母の会

泉 千恵子



ライちゃん



ノーマくん

ノーマライゼーション条例のPRキャラクター

コロナ禍 私たちがなすべきことは

一般社団法人

さいたま市手をつなぐ育成会

加藤 シゲヨ

新型コロナウイルスがまん延し、自粛が始まった昨年4月から、さいたま市育成会としての活動は全国育成会からの情報を頼りに会員さんに情報を流す事しかできませんでした。

そんな中、全国育成会からの会議は全てオンライン開催となり、急きょZOOMに登録し、初体験で最初はドキドキしながらでしたが、東京に行かなくても会議ができるのはとても便利なお事だと感じました。

その後1年が経過し、今はオンラインの便利さに魅了され、さいたま市の育成会もそうなれたらいいなと思います、まず皆さんがネットに繋がっていたかどうか事が先決ですので、ネットの勉強会を検討しているところです。

障害のある人のワクチン接種については全国育成会の厚労省への働き掛けもあり、基礎疾患のある人の範囲拡大により、障害者手帳所持者はこの範囲に入れていただけるようになりました。

そこで、さいたま市育成会としても5月末にさいたま市に早急を実施していただくために要望書を提出いたしました。

併せて、接種方法も入施設同様に小規模事業所単位での接種もできるようにと、なぜならば、障害のある方たちは、1人では接種に行かない人たちがほとんどです。事業所単位で接種が行われれば、混乱を防ぐ事ができる上、注射が苦手な人も仲間と一緒にであれば、よりスムーズに接種でき、漏れなく接種できると思われれます。

6月末現在、障害者もウェブ申請すれば年齢区分に関係なく接種券の申請をして予約が取れるようになりまし

さいたま市聴覚障害者協会

川津 雅弘

新型コロナウイルスワクチン接種通知など、聞こえない人の情報保障について、行政が十分対応できるかどうか不安を持ちました。

例えば、通知が届いても、難しい日本語、特に専門用語が多く、説明の内

だが、なぜ障害者全員に接種券を発送しないのでしょうか。ネットができない人がたくさんいると思われるし、そういう人たちが一番困っているのではないのでしょうか。

育成会としても1人でも多くの障害のある方がスムーズに接種ができるように、皆さんで情報を共有して助け合い、こんな時だからこそ繋がっていく事が何より大切な事と感じております。

知的に障害のある人たちは、なかなか自分の意思を伝えることができませんので、育成会は代弁者としてより多くの思いを伝えていく事が使命だと思っています。

容をつかめない人もいます。また、予約方法も電話でなく、文字であるFAXでの対応が必要です。私たちの第一言語である手話言語での分かりやすい内容説明を手話動画で入れること、予約時のFAX用紙の導入など、当協会から保健所に要望を出し、取り組んできました。

4月11日、当協会とさいたま市手話通訳問題研究会で、コロナワクチン接種における聞こえない人の情報アクセシビリティについて考えるため、緊急に「コロナワクチン接種の説明会」を



聴覚障害者協会ワクチン接種説明会

市はそれに答え、聞こえない人の合理的配慮について対応していただきました。

聞こえない人に対し、分かりやすい案内（連絡先にFAX番号を追加）、予約時のFAX用紙や手話動画（市ホームページ掲載）を入れることになりました。また、聞こえない人のために説明会を開催するようお願いしました。

4月11日、当協会とさいたま市手話通訳問題研究会で、コロナワクチン接種における聞こえない人の情報アクセシビリティについて考えるため、緊急に「コロナワクチン接種の説明会」を

開きました。

その後、6月の聴覚障害者のつどい（3カ所）で、さいたま市新型コロナウイルス（3カ所）で、さいたま市新型コロナウイルス対策室の担当者を派遣いただき、新型コロナウイルスワクチン接種の説明会を開催しました。対象者は、市内の聞こえない人です。

手話言語通訳、要約筆記による文字での情報保障があり、多くの聞こえない人が参加されました。行政による説明の後、分からない部分や、不安な部

分の質疑が多くありました。

あらためて、7月の聴覚障害者のつどい（3カ所）で、新型コロナウイルスワクチン通知から接種（2回目）までの流れを、当協会理事が担当し、分かりやすいイラストと手話言語での説明会を開催する予定です。

聞こえない人の手話言語での情報保障の充実のために、行政などに働き掛け、引き続き運動していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

いします。

4. 障害のある人が孤立しないように相談体制を構築してください。

コロナ禍で障害のある人や家族や支援者が生活しにくくなり、いきづまることのないように、精神的・身体的なフォローができる相談体制を整え、充実・強化してください。

5. コロナ対策を推進、実行する際は障害当事者の声や意見を聞くとともに参画できるようにしてください。

ウイルスに関する正しい知識に基づき、障害を理由とする差別や偏見が起これないよう、正しい情報を社会に発信してください。また、不安をあおらない報道発表のあり方に配慮してください。



大型接種会場 屋外で受付を待つ接種者 大宮区

障害者（児）の生活と権利を守る

さいたま市民の会

大澤 明子

「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望書」提出

障害者（児）の生活と権利を守るさいたま市民の会では、さいたま市に「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望書」を提出し、回答を頂きました。

要望の主な内容は、以下の通りです。

（紙面の都合上、一部割愛）

1. 医療逼迫が続くいかなる状況においても「いのちの選別」を行わないでください。

障害者がコロナに感染した場合、医療機関が受け入れ拒否をしないように指導してください。

2. 障害のある人及び家族、支援者へのPCR検査を早急に実施してください。

重症化リスクが高い障害のある人や日々家庭や事業所で接している家族及び支援者がPCR検査を定期的に受けられるよう早急に対処をしてください。

3. ワクチン接種について

ワクチン接種場所はバリアフリーにし、又身近な医療機関での接種を確保し、移動が困難な障害者に配慮をお願いします。



NPO法人さいたま市障害難病団体協議会

米山 恵美子

私ども（NPOさいたま市障害難病団体協議会）の運営する、地域活動支援センターかものみやのウイルス感染対策としては、講座の削減、人流の制限、マスクの着用、大声での会話の禁止を徹底しています。利用者の送迎時、関係者入室には検温消毒は欠かさず密になるセンター内には、お手製の亚克力パネルで人を遮断し、今に至ってどなたも感染はありません。長い感染対策期は利用者ともども我慢の毎日です。

福祉タクシートの 利用券について

さいたま市は、障害者の生活圏の拡大と社会参加の促進を図るため、タクシー利用料金の助成として福祉タクシー券を交付しています。福祉タクシー券は、埼玉県・さいたま市と協定を締結しているタクシー会社で利用できます。

■さいたま市に要望書提出

さいたま市精神障害者家族会連絡会



は、精神障害者の医療・保健・福祉施策の充実に関する要望書を、さいたま市に提出しました。

「精神障害者は、交通機関を利用しにくい実情があるため、1級以外にも福祉タクシーの利用券を交付して下さい」という要望に対して、先日、同市の懇談会で、「対象者の視野を拡充するためには、さまざまな角度からの検討が必要になります。本制度の持続性を確保できるように、財源確保などの課題を踏まえ、各関係課と調整を行いながら、検討してまいります」という内容の文書回答がありました。

行政側にお願いがあります。「どうしたら財源の捻出ができるのか」「どうやったら実現できるか」など、予算確保のために前向きに知恵を絞って努力して欲しいです。緊急の課題でもあります。

「移動する際、精神・肉体的に疲れ易い。人目も気になり、交通機関が利用しにくい」（ウイーズ・稲葉事務局長）の発言がありました。

■交付の実態

身体・知的・精神の年度交付は、身

体障害者手帳1・2級：54枚、3級：36枚。療育手帳①・A：54枚。精神障害者保健福祉手帳1級：54枚となっております。

助成額は、タクシー初乗運賃相当額（600円）となっており、利用方法は、障害者手帳を提示して、福祉タクシー利用券と差額分を支払います。コロナの影響もあり、60%（令和2年度）の利用率になっています。

さいたま市精神障害者家族会連絡会
鈴木 義男

▼ICカードに障害者割引

障害者手帳を提示しなくてもスイカやパスモのICカードで、鉄道やバスの障害者割引が利用できるようになります。

割引を受ける際、利用の都度、バス運転者や駅員に障害者手帳を見せることに、苦痛を感じ、煩わしいと思っている人も多いためです。

現在、首都圏で障害者割引に対応する専用のICカードを発売することが検討されています。来年度後半からサービス開始される見通しです。

編集後記

▼五輪中止・延期を望む意見が国民の半数以上を占め、政府に対する信頼感が低迷していた今年4月。連日のメダルラッシュによって「攻守逆転」した形で閉幕。アスリート及び関係者の方々には感謝したいです。もちろん「反対している」という方もいますが、少なくとも、1、2カ月前までの「アンチ五輪」の勢いはトーンダウンしているようです▼コロナ感染者が急増しており、30代以下が7割を超えています。ワクチン接種の影響で、高齢者の重症化率は減少していますが、命と健康を守るためにも、「マスク着用」「3密」は守りたいです。（鈴木）

さいたま市障害者協議会
会報あ・うん第27号
発行 さいたま市障害者協議会
会長 中野 勇
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1
大宮ふれあい福祉センター 4階
TEL 048-653-7271
FAX 048-653-7341
http://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。